

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
361	2006/08/18	60360	アステラス製薬	パミテプラーゼ(遺伝子組換え)	トランスフェリン	ウシ血液	オーストラリア、 ニュー ジーランド	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED20060105-0020	ケニアで炭疽感染により2名が死亡した。うち1例は炭疽感染したウシを食べたためと考えられた。Itara村では同様のウシを食べた500人以上のうち、29名が炭疽陽性であった。ケニアでは家畜、野生動物に炭疽感染が広がっている。
												細菌感染	Ned Tijdschr Geneeskd 2006; 150: 105-107	オランダで1993年から2003年の間に新生児3例(女児2例、男児1例)でリステリア・モノサイトゲネスによる侵襲性感染が確認された。女児1例は後遺症もなく存命だが、他の2例は新生児期に死亡した。死亡例のうち1例は母親が低温殺菌されていない牛乳を飲んだことが原因である。この感染症は稀であるが重篤なため、妊婦に菌に汚染されたおそれのある食料を食べないようにアドバイスすることは重要である。
												炭疽	Trop Doct 2006; 36: 51-53	トルコでウシの死体を感染源とする炭疽感染により3例の患者が発生した。炭疽は髄膜、皮膚および喉頭に影響を及ぼし、髄膜炎を併発した患者1例は死亡した。死んだウシに接触したり、肉を食べた20人は全員、予防的にテトラサイクリンを服用し、健康である。
												炭疽	OIE Disease Information 19(19) 2006年5月11日、19(20) 2006年5月18日	2006年4月10日、レソトで炭疽が発生した。5月17日までにウシ51頭、ヒツジ70頭、ウマ39頭が死亡した。死んだ動物の肉を食べた30人が感染し、うち5人が死亡した。
362	2006/08/18	60361	アステラス製薬	パミテプラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	オーストラリア、 ニュー ジーランド	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED20060105-0020	ケニアで炭疽感染により2名が死亡した。うち1例は炭疽感染したウシを食べたためと考えられた。Itara村では同様のウシを食べた500人以上のうち、29名が炭疽陽性であった。ケニアでは家畜、野生動物に炭疽感染が広がっている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 105-107	オランダで1993年から2003年の間に新生児3例(女児2例、男児1例)でリステリア・モノサイトゲネスによる侵襲性感染が確認された。女児1例は後遺症もなく存命だが、他の2例は新生児期に死亡した。死亡例のうち1例は母親が低温殺菌されていない牛乳を飲んだことが原因である。この感染症は稀であるが重篤なため、妊婦に菌に汚染されたおそれのある食料を食べないようにアドバイスすることは重要である。
												炭疽	Trop Doct 2006; 36: 51-53	トルコでウシの死体を感染源とする炭疽感染により3例の患者が発生した。炭疽は髄膜、皮膚および喉頭に影響を及ぼし、髄膜炎を併発した患者1例は死亡した。死んだウシに接触したり、肉を食べた20人は全員、予防的にテトラサイクリンを服用し、健康である。
												炭疽	OIE Disease Information 19(19) 2006年5月11日、19(20) 2006年5月18日	2006年4月10日、レプトで炭疽が発生した。5月17日までにウシ51頭、ヒツジ70頭、ウマ39頭が死亡した。死んだ動物の肉を食べた30人が感染し、うち5人が死亡した。
363	2006/08/18	60362	アステラス製薬	パミテプラゼ(遺伝子組換え)	インスリン	ウシ降膜	オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、米国	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED20060105-0020	ケニアで炭疽感染により2名が死亡した。うち1例は炭疽感染したウシを食べたためと考えられた。Itara村では同様のウシを食べた500人以上のうち、29名が炭疽陽性であった。ケニアでは家畜、野生動物に炭疽感染が広がっている。
												細菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 105-107	オランダで1993年から2003年の間に新生児3例(女児2例、男児1例)でリステリア・モノサイトゲネスによる侵襲性感染が確認された。女児1例は後遺症もなく存命だが、他の2例は新生児期に死亡した。死亡例のうち1例は母親が低温殺菌されていない牛乳を飲んだことが原因である。この感染症は稀であるが重篤なため、妊婦に菌に汚染されたおそれのある食料を食べないようにアドバイスすることは重要である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	Trop Doct 2006; 36: 51-53	トルコでウシの死体を感染源とする炭疽感染により3例の患者が発生した。炭疽は髄膜、皮膚および喉頭に影響を及ぼし、髄膜炎を併発した患者1例は死亡した。死んだウシに接触したり、肉を食べた20人は全員、予防的にテトラサイクリンを服用し、健康である。
												炭疽	OIE Disease Information 19(19) 2006年5月11日、19(20) 2006年5月18日	2006年4月10日、レソトで炭疽が発生した。5月17日までにウシ51頭、ヒツジ70頭、ウマ39頭が死亡した。死んだ動物の肉を食べた30人が感染し、うち5人が死亡した。
364	2006/08/22	60369	三共	フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ	デオキシリボヌクレアーゼ	牛の脾臓	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
365	2006/08/22	60370	三共	フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ	フィブリノリジン	牛の血漿	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
366	2006/08/22	60371	麒麟麦酒	エポエチンアルファ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	結核	ProMED20060201-0040	米国ミネソタ州北東部で家畜の群れ5群がウシ結核に感染し、全て同一株であると思われる。連邦政府はミネソタ州の家畜の売買を制限すると思われる。
												結核	ProMED20060201-0040	米国農務省USDAは、症例確認を受けて、ミネソタ州を家畜(ウシ)に結核の存在しない(TB-free)州の地位から降格させる。
												BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンブロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED20060314-0020	米国USDAのClifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告。アラバマ州の獣医によって採取されたヘタリウシの検体はジョージア大学の研究所に送られたが、迅速スクリーニング検査では結論が出ず、NVSL(National Veterinary Services Laboratories)に送られ免疫組織学的方法とウエスタンブロット法で検査された。今回はウエスタンブロット法による検査で陽性であることが判明し、BSE陽性と確定された。アメリカのBSE発生率は極めて低いことを強調している。
												BSE	米国 Alabama Department of Agriculture & Industries 2006年5月2日	アラバマ州で発生したBSE陽性ウシに関する疫学的調査の結果を発表した。アラバマ州当局及びAPHIS(動植物衛生検査部)は36カ所の農場および5カ所の競り市を調査し、陽性ウシの血縁を含む集団のDNA検査を実施したが、この調査でBSE陽性のウシの由来となる集団を明らかにできなかった。また、FDAは、1997年のfeed ban以降に陽性ウシに飼料を供給していた可能性のある飼料工場に対して調査を実施したが、禁止部位を扱っていた全ての工場は、feed banに従っていることが判明した。
												BSE	ProMED20060504-0040	米国農務省はアラバマ州で発生したBSE陽性牛に関する疫学的調査結果について声明を出した。感染牛は安楽死処分され、検体採取後に焼却処分された。農務省動植物衛生検査部(APHIS)プロトコールに従って、家畜やヒトの食物連鎖からは除外された。当局の調査によれば、問題のウシは10歳令以上でFDAによる1997年の飼料規制令施行前に生まれていた。
												ボツリヌス中毒	ProMED20060525-0040	オーストラリアにおけるウシの大量死の原因は、稀なボツリヌス菌株による中毒であった。専門家は現在、稀なボツリヌス菌株が、Murray Bridge近郊の酪農場で発生した疾病の原因であると考えている。
												BSE	ProMED-mail 20060601.1525	米国で見つかったBSE陽性ウシ2例は、ヨーロッパで見られる稀なBSE株由来のものであった。ロンドンの国際学会でフランスとイタリアの研究者は、検出されにくく、主に高齢の家畜に影響を与える2種類の稀なBSE株を報告した。フランスの研究者は、2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで見発見されたBSE陽性ウシは、フランス、スウェーデン、ポーランドで見られる少数のBSE異型株と同一であることを明らかにした。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED-mail 20060607.1588 [1]	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないとしている。
												BSE	ProMED-mail 20060607.1588 [2]	ヨーロッパおよび米国の科学者らは、BSEの新株である可能性があるウシにおける新たなTSEの発生を追跡している。家畜におけるプリオン病に関する国際会議において、フランスおよびイタリアの科学者らは5～15歳の少数のウシにおいてどのようにこの疾患が検出されたかを述べた。この新株は潜伏期間や検査においてBSEと異なる特徴を示し、当初、感染が疑われる死亡動物の調査中ではなく、生存動物を対象にした積極的調査によって発見された。
												ボツリヌス中毒	ProMED-mail 20060629.1797	オーストラリア南部の乳牛農場で農場経営に打撃を与えるような希少株によるボツリヌス中毒症の大発生があった。農場主はマレーブリッジのジャーボンス地区の農場で2006年5月以降に80頭の牛を失った。B型ボツリヌス中毒症が疑われたが、初期の検査では何も発見されなかった。新たな検査によってウシの糞からB型ボツリヌス毒素が見つかった。この農場で起きた流行は通常よく見られるC型およびD型ではなく、B型ボツリヌス菌が原因であることが示唆された。
367	2006/08/22	60372	麒麟麦酒	エポエチナルファ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞	10数年前に樹立したマスターバンクに使用した動物の細胞株	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
368	2006/08/22	60373	麒麟麦酒	エポエチナルファ(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓由来トリプシン	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	ProMED20060412-0060	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。中国の科学者らは、「ブタ連鎖球菌(<i>Streptococcus suis</i>)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシックショック症候群により死亡した。」と述べた。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。他の専門家は「トキシックショック症候群と診断され、ブタとの接触があった患者は全てブタ連鎖球菌感染を調べた方良い。」と述べた。北京の中国科学院のGeorge Gao氏の率いる研究者らは、「主に四川省の204名が罹患した2005年の流行は唯一のものではなく、1998年の中国江蘇省での流行と、よく類似していた」と報告した。1998年の流行では感染した25名のうち14名が死亡した。
369	2006/08/23	60374	日本ケミカルリサーチ	注射用ミリモステム	ミリモステム	ヒト尿	中国、台湾	有効成分	有	無	無	髄膜炎感染	Lancet 2006; 367: 419-423	中国Anhui省で2003~2004年に発生した髄膜炎から単離された34株のうち31株、ならびに2004~2005年の30株のうち17株がセログループCの髄膜炎菌であった。中国全土の調査で、2004~2005年に単離された542株のうち58株がセログループCの髄膜炎菌であった。106のセログループC株を分析したところ、89株が同一のPFGE(pulsed-field gel electrophoresis)パターンを示し、AH1と名づけられた。MLST(multi-locus sequence typing)分析を行った28株のうち25株がシークエンス型4821(ST-4821)で、今まで報告されることがない新しい強毒系統のシークエンス型であった。
370	2006/08/23	60375	日本製薬	①加熱人血漿たん白 ②人血清アルブミン(5%) ③人血清アルブミン(20%) ④人血清アルブミン(25%) ⑤乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン ⑥トロンピン ⑦乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ ⑧人免疫グロブリン	ヘパリン	ブタ腸粘膜	ブラジル	製造工程 ①~⑨、 添加物⑨	無	無	無			
371	2006/08/23	60376	ZLBベリング	人C1-インアクチベーター	人C1-インアクチベーター	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	無	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
372	2006/08/23	60377	ZLBベアリング	人血清アルブミン 人免疫グロブリンG 破傷風抗毒素 フィブリノゲン加第XIII因子 ペプシン処理人免疫グロブリンG 乾燥濃縮人アンチトロンビンIII	ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	無	無	無			
373	2006/08/24	60378	持田製薬	下垂体性性腺刺激ホルモン(hMG)	下垂体性性腺刺激ホルモン(hMG)	ヒト(閉経期婦人)尿	中国	有効成分	有	無	無	細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方会総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	Bartonella alsaticaは野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。
												ボツリヌス中毒	IASR 2006; 27: 46-48	2004年12月に呼吸困難、意識障害で入院した9ヶ月の男児の便からE型ボツリヌス毒素とE型ボツリヌス産生性Clostridium butyricumが検出され、本菌による乳児ボツリヌス症と診断された。感染源検査の結果、患者自宅の風呂排水口から同一の菌が検出された。本症例は日本で初めてのC. butyricumによる乳児ボツリヌス症と考えられる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	WHO 2006年2月17日 http://www.who.int/csr/don/2006_02_17a/en/index.html	2005年3月28日から2006年2月12日の間、フランス領レユニオンで1722例のチクングンヤが報告された。数学的モデルからの推計では2005年3月以降、11万人がチクングンヤウイルスに感染した可能性がある。南西インド洋の他の国でも報告があった。チクングンヤは死に至ることは希であるが、WHOは調査団を派遣する計画である。
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会(2006年4月20-21日)	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
												鳥インフルエンザ	CDC 2006年6月30日	種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒト-ヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に拡がるように変化しうることを科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
374	2006/08/24	60379	持田製薬	日本薬局方 注射用胎盤性性腺刺激ホルモン	日局 胎盤性性腺刺激ホルモン	ヒト(妊婦)尿	中国	有効成分	有	無	無	細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方会総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌は <i>Mycobacterium mageritense</i> と同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	<i>Bartonella alsatica</i> は野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。
												ボツリヌス中毒	IASR 2006; 27: 46-48	2004年12月に呼吸困難、意識障害で入院した9ヶ月の男児の便からE型ボツリヌス毒素とE型ボツリヌス産生性 <i>Clostridium butyricum</i> が検出され、本菌による乳児ボツリヌス症と診断された。感染源検査の結果、患者自宅の風呂排水口から同一の菌が検出された。本症例は日本で初めての <i>C. butyricum</i> による乳児ボツリヌス症と考えられる。
												ウイルス感染	WHO 2006年2月17日 http://www.who.int/csr/don/2006_02_17a/en/index.html	2005年3月28日から2006年2月12日の間、フランス領レユニオンで1722例のチクングンヤが報告された。数学的モデルからの推計では2005年3月以降、11万人がチクングンヤウイルスに感染した可能性がある。南西インド洋の他の国でも報告があった。チクングンヤは死に至ることは希であるが、WHOは調査団を派遣する計画である。
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会(2006年4月20-21日)	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月~2003年9月、2005年1月~7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
												鳥インフルエンザ	CDC 2006年6月30日	種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒト-ヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に拡がるように変化するのを科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。
375	2006/08/24	60380	持田製薬	日本薬局方 ヘパリンナトリウム注射液	白鳥 ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	フランス	有効成分	無	無	無			
376	2006/08/25	60363	三共エール薬品	ダルテパリンナトリウム	血液凝固阻止剤	豚小腸	中華人民共和国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2006; 80(S): 297 第80回日本感染症学会総会学術講演会	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。単焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
377	2006/08/25	60364	グラクソ・スミスクライン	A型ボツリヌス毒素	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	添加物	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO 2006年5月18日、5月23日、5月31日、6月6日	インドネシアでH5N1トリインフルエンザに感染したヒト7例中6例が死亡した。感染経路として家禽からヒトへの感染だけでなく、ヒトからヒトへの感染の可能性が指摘されたが、現時点ではヒトからヒトへ効率よく感染することはないと考えられる。
378	2006/08/28	60365	シエリン グ・ブラウ	インターフェロナルファ-2b (遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	GDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。
												デング熱	ProMED20060111-0020	インドネシアで2005年12月のデングウイルス感染者数は61名となり、10月の22名、11月の20名に比べ、大幅に増加した。Yogyakarta地域Bantul地区では豪雨が続き、2006年1月にはさらに増加すると思われる。ネッタインマカのポウフラがいない地区は、この地域では67%に過ぎない。雨季に加え、衛生状態が不良であるとも感染者数を増加させている。
												感染	AABB Weekly Report 2006; 12(3): 4	New Yorkの葬儀店が家族の同意を得ずにヒトの組織を不法にBiomedical Tissue Serviceに販売し、書類が改ざんされ、5社に売られた件に関して、上院議員がFDAに組織移植産業にさらに監視を強めるよう要請した。2005年10月にFDAは同社により販売された組織の回収を始めた。しかし、12月に、背中の中の手術中に同社の骨片を移植された女性が梅毒に感染したことが報告された。
												デング熱	ProMED20060128-0020	ブラジル、リオデジャネイロで過去5週間に発生したデング熱流行により、少なくとも2名が死亡した。2006年1月26日までに217名がデング熱に感染しており、2005年同月の患者数の約4倍に上る。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローン フェルト・ヤコブ 病	CDR Weekly 2006: 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
												ウイルス感染	ProMED20060204 -0090	セーシェルにおいて2000名近くがインド洋の3島に拡がる蚊の媒介する疾患に感染していると政府地域医療局長が述べた。、チクングンヤと診断された患者が2005年11月以降増加しており、2006年1月だけで1000名近い患者が報告されている。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年2 月20日	オーストラリアにおいて、蚊により媒介される感染症であるロスリバーウイルスとバーマフォレストウイルスの発症数が増加している。2006年1月中の感染者数は、各々、838例および127例で、過去5年間の平均の約4倍および約2倍と推定されている。カナダ公衆衛生局は旅行者に対し、蚊に刺されないように等、注意を呼びかけている。
												ウイルス感染	ProMED20060305 -0110	2005年3月28日から2006年2月19日の間に、レユニオン島では31人の臨床医ネットワークにより、2406例(2月13日から19日の333例を含む)のチクングンヤ患者が診断された。数理モデルによれば2005年3月からの患者数は157000例にのぼり、うち22000例は2月13日から19日に発症したと推定される。
												感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年3 月10日	米国ミネソタ州保健局によると、男性と性交渉を持つ男性(MSM)における感染性梅毒の症例数は2004年と比較して約3倍になっている。MSMの症例のうち約37%はHIVにも感染していた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(14): 398-399	2005年5月、ベットのげっ歯類から感染したと思われた共通のドナーから臓器移植を受けた3例のレシピエントの死亡にLCMVが関与していた。同年8月にコネチカット州公衆衛生局はLCMV感染症の最近の発生率、LCMVに関する認識の程度、および検査の頻度について病院検査室および感染症医師の調査を行った。その結果、医師はLCMVを知ってはいるが、LCMV検査は頻繁には行われておらず、LCMVを考慮する必要性を認識していないようであった。LCMV感染の頻度を調べ、ベットの感染を監視するためには更に体系的な努力が必要である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006; 12(17): 6	英国のCJD患者7例は1970年から2003年の間にヒト硬膜移植により感染していた。J Neurol Neurosurg Psychiatrによると、英国CJDサーベイランスシステムはCJD症例全てを把握する計画である。英国ではヒトでのCJD感染リスクは未知であるが、1973年から2003年の間に同治療を受けた患者におけるCJD感染リスクは、オーストラリアでは500例中1例、日本では1000例から2000例中1例と概算されている。
												感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月5日	2004年におけるカナダの感染性梅毒の感染率は10万人中3.5人で、1997年の報告と比較して約9倍になった。特に男性での増加が著しく、2004年の報告例のほぼ90%が男性で、1997年の15倍以上になった。また男性患者の82%が30～59歳である。カナダでの性感染症の1位はクラミジアで2004年には約83000例(10万人中197.1人)が報告され、1997年より70%以上増加した。2位は淋病で、2004年には10万人中28.9人で1997年の約2倍であった。
												ウイルス感染	ProMED20060507-0030	ターニャウイルスはウエストナイル様の脳炎をヒトに起こしうるウイルスで、ヨーロッパの蚊、ウサギ、トリの間で一般的であり、既にこの様な感染症に罹患し死亡者が出ている可能性がある。毎年50人程度の英国人がウイルス性脳炎で死亡しているが、このうち原因病原体が判明しているのは40%以下である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	CDC/MMWR 2006; 55(SS04): 23-37	米国の2004年におけるマラリア症例は1324例であり、2003年より3.6%増加した。海外でマラリアになった合衆国民間人775例の内、CDCが推薦する予防薬を使用した人は20.6%しかいなかった。米国内で感染した4例中3例は先天的感染によるもので、残り1例は研究室の蚊によるものであった。あった。
												C型肝炎	J Hosp Infect 2006; 63: 65-69	使用に衛生的な問題があった毛細血管血糖測定器(Roche Diagnostics社製Glucotrend)を介して、HCV感染者から非感染者への伝播が発生した。同病院ではこの測定器を購入して以来、抗HCV抗体陽性の糖尿病患者20名が入院しており、装置を使用した患者についてレトロスペクティブな調査を行った。検査を受けた995例中19例が抗HCV陽性であった。これは通常のフランス人における感染率よりも高かった。
												E型肝炎	日本輸血学会雑誌 2006; 52: 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。HEV問診や抗体スクリーニングはHEV RNA陽性者の排除には有効ではない。
379	2006/08/30	60366	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子	血液凝固第Ⅳ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月28日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ入旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。カナダ公衆衛生局は旅行者に対し、蚊に刺されないように等、注意を呼びかけている。
380	2006/08/31	60367	持田製薬	日本薬局方トロンビン	トロンボプラスチン	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	BSE	OIE http://www.oie.int/ Messages/060309SUE.htm	スウェーデンでBSEが初めて報告された。Vastmanland郡の1994年3月生まれの食用交雑種雌牛で、乳熟後に後ろ足の問題で処分された。迅速検査で陽性後すぐに、同じ群れのウシは制限下に置かれた。診断は国立獣医学研究所と英国のOIE Reference研究所で行われた。危険動物の同定と餌に関する調査はEU法に準じて行われる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED20060429-0030	2006年2月にクロアチアから、4月にエストニアから、各々、国内初となるBSE疑い例を発表したが、OIEは組織病理学的診断の結果、BSEは確認されなかったことを報告した。
381	2006/08/31	60368	持田製薬	日本薬局方トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュー ジーラ ンド、オース トラリア	有効成分	有	無	無	BSE	OIE http://www.oie.int /Messages/06030 9SUE.htm	スウェーデンでBSEが初めて報告された。Vastmanland郡の1994年3月生まれの食用交雑種雌牛で、乳熟後に後ろ足の問題で処分された。迅速検査で陽性後すぐに、同じ群れのウシは制限下に置かれた。診断は国立獣医学研究所と英国のOIE Reference研究所で行われた。危険動物の同定と餌に関する調査はEU法に準じて行われる。
												BSE	ProMED20060429-0030	2006年2月にクロアチアから、4月にエストニアから、各々、国内初となるBSE疑い例を発表したが、OIEは組織病理学的診断の結果、BSEは確認されなかったことを報告した。
382	2006/08/31	60381	東菱薬品 工業	ソルコセリル	ソルコセリル	幼牛血液抽出物	オーストラ リア、 ニュー ジーランド	有効成分	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Am J Pathol 2006; 168: 151- 157	vCJD病患者の脳に蓄積する異常プリオン蛋白について、従来の抗体と1型に特異的な新しい抗体を用いてウェスタンブロット法により検討した。その結果、2型だけでなく、1型も少ないが脳内に広く存在することが初めて明らかになった。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	Bartonella alsaticaは野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												レプトスピラ症	Int. J. Syst. Evol. Microbiol 2006; 56: 593-597	タンザニアではレプトスピラ症の感染率は家畜やげっ歯類で一般に高い。家畜から単離されたレプトスピラを血清学のおよび分子学的に同定を行ったところ、RM1とコードされた単離体は、セログループ IcterohaemorrhagiaeのL.kirschneri種の新しい変異型であり、Sokoineと名づけられた。
383	2006/08/31	60382	東菱薬品工業	ヘモコアグラゼ	ヘモコアグラゼ	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			